

清水寺

有名なお寺の意外と知られていない事実をお伝えます。今回は普段と違った視点で参拝して見ては？ (うむ)

音羽の滝

水行(滝に打たれて修行すること)の聖地として知られる。元々は一筋だった滝を、山岳修行者や参拝者が増えたため人工的に三筋に分けたのは鎌倉中期のこととされる。「三」という数字が仏教において様々なものを表すことから三筋となった、という説が有力。

今では三筋がそれぞれ違った利益を与えてくれるとする俗説が多く存在するが、寺としては滝の効能を「諸(所)願成就」とし、利益を限定していない。滝に打たれたり清らかな水を飲んだりして願をかければよいという。



◀ 古来より参拝者が絶えない深山幽谷の地

三筋の俗説

① 恋愛・健康・学業

一般に向かって左から恋愛、健康、学業とされる。恋愛至上主義からか恋愛を中央とする説も。

② 健康・美容・出世

地元京都で語られることが多いようだ。①と比べ若干大人向け(他意はない)の感がある。

③ 仏・法・僧への帰依

仏教における三法を表すとする説。余談だが、「フッポウソウ」と鳴く鳥はコノハズク。

④ 身・口・意の清浄

③と同様、仏教信仰からきた説。「清浄」より先に「正常」を望む京大生も多いかもしれない。



本堂舞台

舞楽・歌・狂言などの「舞台」として使われており、2001年11月には劇団四季「オペラ座の怪人」が奉納された。

「清水の舞台から飛び降りる」ということわざがある。昔は実際に飛び降りが行われており、二度の流行期があった。

一度目は平安中期、末法の世に生きることを嫌った人々により、清水の地を観音浄土に見立てた飛び降り自殺が大流行した。

二度目は江戸時代で、寛永期以後約200年の間に235件・234人の飛び降りがあった。ただ、舞台の高さが13mあるにも関わらず、この時期に飛び降りた人々の生存率は85%と高い。これは、飛び降りの目的が自殺ではなく、観音への願掛けやお礼参りだったため。当時は舞台上の地面が土であり、頭から落ちなければ骨折程度で済んだようだ。

現在では下の地面は石畳になっており、ここ数十年のうちに飛び降りた人々はみな死亡している。飛び降りではなく、安全な方法で祈ろう。

拝観情報



- 拝観時間
6:00~18:00
- 拝観料
大人300円、小中学生200円
- アクセス
市バス「京大正門前」から206系統に乗車し、「清水道」又は「五条坂」下車後徒歩10分